

# 冬の天候の見通し

## 12～2月

### 予報のポイント

- 冬の気温は、西日本と沖縄・奄美では、北からの寒気の影響が弱いため高いでしょう。東日本でも、平年並か高い見込みです。北日本は、ほぼ平年並でしょう。
- 冬の降雪量は、西日本日本海側では、冬型の気圧配置が長続きしないため少ないでしょう。東日本日本海側は、冬の降水量とともに平年並か少ないでしょう。

〔 冬の天候に影響の大きい北極振動の予想は難しく、現時点では考慮できていませんので、予報には不確実性があります。常に最新の1か月予報等をご覧ください。 〕

### 冬（12～2月）の平均気温・降水量・降雪量

		平均気温 冬（12～2月）	降水量 冬（12～2月）	降雪量 冬（12～2月）
北日本	日本海側	低 30 並 30 高 40% ほぼ平年並の見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 40 並 30 多 30% ほぼ平年並の見込み
	太平洋側		少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み	予報しません
東日本	日本海側	低 20 並 40 高 40% 平年並か高い見込み	少 40 並 40 多 20% 平年並か少ない見込み	少 40 並 40 多 20% 平年並か少ない見込み
	太平洋側		少 30 並 30 多 40% ほぼ平年並の見込み	予報しません
西日本	日本海側	低 20 並 30 高 50% 高い見込み	少 30 並 30 多 40% ほぼ平年並の見込み	少 50 並 30 多 20% 少ない見込み
	太平洋側		少 30 並 30 多 40% ほぼ平年並の見込み	予報しません
沖縄・奄美		低 20 並 30 高 50% 高い見込み	少 30 並 30 多 40% ほぼ平年並の見込み	予報しません

↑  
数値は予想される出現確率です

平均気温 冬（12～2月）

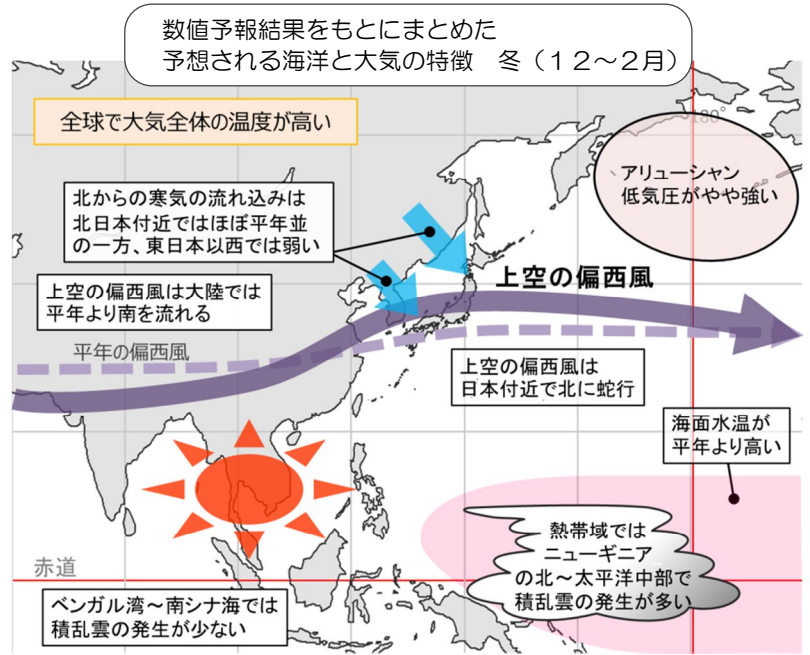
降水量 冬（12～2月）

降雪量 冬（12～2月）

季節予報は、予測の確からしさに応じて、気温や降水量などを「低い（少ない）、平年並、高い（多い）」となる確率で表しています。「平年並」がどの程度の値になるのかについては、末尾の「参考データ（平年並の範囲）」をご覧ください。  
確率をその大きさに応じ言葉で解説しています。詳しくは末尾の「参考データ（確率予報の解説）」をご覧ください。

## 予想される海洋と大気の特徴

- 全球で大気全体の温度が高いでしょう。
- 熱帯域では、ニューギニアの北～太平洋中部で海面水温が平年より高く、積乱雲の発生が多い見込みです。一方、ベンガル湾～南シナ海では積乱雲の発生が少ないでしょう。
- 上空の偏西風は大陸では平年より南を流れる一方で日本付近では北に蛇行し、東・西日本～沖縄・奄美では北からの寒気の流れ込みが弱いでしょう。
- アリューシャン低気圧は平年よりやや強く、これに近い北日本には平年とほぼ同程度に寒気の流れ込む見込みです。



## 最近 10 年間の冬の特徴

年	冬の平均気温 平年差℃（階級）				冬の天候の特徴
	北日本	東日本	西日本	沖縄・奄美	
2008/'09	1.4 (++)	1.3 (++)	0.9 (+)	0.8 (+)	冬型の気圧配置となる日が少なく、全国高温
2009/'10	0.4 (0)	0.6 (+)	0.7 (+)	0.4 (+)	全国で気温の変動大 北陸中心に大雪の時期が3回
2010/'11	0.6 (+)	0.2 (0)	-0.4 (-)	-0.8 (-)	12月末～1月末日本海側で大雪、低温
2011/'12	-1.3 (-)	-0.9 (-)	-0.7 (-)	0.0 (0)	冬型多く、北～西日本は3か月連続低温 最近10年間では“平成18年豪雪”に次ぐ積雪
2012/'13	-1.2 (-)	-0.8 (-)	-0.7 (-)	0.4 (+)	北・東・西日本で低温 北日本日本海側を中心に多雪
2013/'14	0.2 (0)	-0.2 (-)	-0.1 (0)	-0.3 (-)	東日本、沖縄・奄美で低温 2月に関東甲信で記録的大雪 日本海側の平地は少雪
2014/'15	0.8 (+)	-0.2 (-)	-0.2 (-)	-0.5 (-)	12月は全国的に強い寒気の流れ込むが、1月以降は少雪
2015/'16	1.0 (+)	1.4 (++)	1.0 (++)	0.6 (+)	冬型の気圧配置が長続きせず、全国的に高温・多雨・少雪
2016/'17	0.5 (+)	0.8 (+)	0.8 (+)	1.1 (++)	日本付近への寒気の南下が弱く、全国的に高温
2017/'18	-0.4 (-)	-0.7 (-)	-1.2 (-)	-0.3 (-)	日本付近へ強い寒気の流れ込むことが多く、全国的に低温

「2017/'18」は2017年12月～2018年2月のことです。  
階級 --: かなり低い -: 低い 0: 平年並 +: 高い ++: かなり高い

年	冬の降雪量 平年比%（階級）				
	北海道日本海側	東北日本海側	北陸	近畿日本海側	山陰
2008/'09	90 (-)	66 (--)	37 (--)	50 (-)	65 (-)
2009/'10	95 (-)	79 (-)	91 (0)	41 (--)	43 (--)
2010/'11	93 (-)	93 (0)	95 (0)	93 (0)	174 (+)
2011/'12	98 (0)	102 (0)	115 (+)	136 (+)	158 (+)
2012/'13	100 (0)	112 (+)	82 (0)	85 (0)	64 (-)
2013/'14	80 (--)	77 (-)	34 (--)	46 (-)	58 (-)
2014/'15	73 (--)	77 (-)	71 (-)	77 (0)	66 (-)
2015/'16	79 (--)	60 (--)	47 (-)	32 (--)	38 (--)
2016/'17	63 (--)	72 (--)	43 (-)	108 (0)	97 (0)
2017/'18	93 (-)	88 (-)	127 (+)	72 (0)	137 (+)

「2017/'18」は2017年12月～2018年2月のことです。  
階級 --: かなり少ない -: 少ない 0: 平年並 +: 多い ++: かなり多い

## 参考データ

### ● 平年並の範囲

		平均気温 冬(12~2月)	降水量 冬(12~2月)	降雪量 冬(12~2月)
北日本	日本海側	平年差：-0.3~+0.4℃	平年比：93~105%	平年比：93~104%
	太平洋側		平年比：80~112%	—
東日本	日本海側	平年差：-0.1~+0.4℃	平年比：94~104%	平年比：74~100%
	太平洋側		平年比：74~124%	—
西日本	日本海側	平年差：-0.1~+0.5℃	平年比：87~110%	平年比：66~104%
	太平洋側		平年比：74~117%	—
沖縄・奄美		平年差：-0.1~+0.2℃	平年比：85~107%	—

「平年並」の範囲は、同時期の過去 30 年間（1981-2010 年）の値から統計的に求めています。30 年間のデータの中で「高い（多い）」「平年並」「低い（少ない）」となるデータの数が等分になるように「平年並」の範囲を決めています。すなわち、30 年間の 30 個のデータのうち、値が高い（多い）方から 11~20 番目となる 10 個のデータの値の範囲を、おおよそ「平年並」の範囲としています。

### ● 晴れ日数と降水日数の平年値

	12月		1月		2月	
	晴れ日数	降水日数	晴れ日数	降水日数	晴れ日数	降水日数
札幌	11.2日	15.4日	11.6日	18.1日	12.1日	16.0日
仙台	18.6日	4.7日	19.7日	5.3日	19.0日	5.0日
新潟	6.2日	21.7日	5.1日	21.5日	6.6日	17.3日
東京	22.5日	4.2日	22.9日	4.5日	19.1日	5.5日
名古屋	21.5日	5.5日	21.4日	5.3日	19.8日	6.3日
大阪	19.4日	5.5日	18.3日	5.6日	16.2日	6.3日
広島	19.5日	4.9日	18.1日	5.7日	17.2日	7.0日
高松	19.0日	6.2日	18.6日	6.5日	17.0日	6.9日
福岡	13.5日	8.5日	11.2日	9.1日	13.7日	8.3日
鹿児島	18.1日	7.7日	15.2日	8.9日	15.0日	8.8日
那覇	13.5日	8.1日	10.3日	10.5日	9.0日	10.2日

「晴れ日数」は「日照時間が可照時間の40%以上」の日数であり、「降水日数」は「日降水量1mm以上」の日数です。この2つは同じ日に起こることがあるため、「晴れ日数」と「降水日数」の両方に数えられる日もあります。

### ● 確率予報の解説（ここでは確率予報を次のような言葉で解説しています）

出現確率（低い（少ない）：平年並：高い（多い））	解説
高い（多い）確率が50%以上 (20:40:40)	高い（多い）見込み 平年並か高い（多い）見込み
平年並の確率が50%以上 (40:30:30) (30:40:30) (30:30:40)	平年並の見込み ほぼ平年並の見込み
低い（少ない）確率が50%以上 (40:40:20)	平年並か低い（少ない）見込み 低い（少ない）見込み